シルバーブレット

レイン=トーネット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
シルバーブレット

【Ｎコード】
Ｎ９９５０Ｃ

【作者名】
レイン＝トーネット

【あらすじ】
推理力に秀でた高校生が、数々の（？）事件を解決していく

ブレット0

俺の名前は涙　八雲。
高校二年生。
三重県に住んでる。
いきなりだが、俺は朝が弱い。
今日は日曜日だ。
たっぷり寝れる。
しかし、俺の快眠は、次の怒声で妨げられることになる。

ドカドカ
刑事
「涙　八雲！涙　ユリ殺害の容疑で逮捕する！」
さすがに目が覚めたね…
あぁ、ユリってのは俺の母さんだ。
って…ちょっと待て、俺が母さんを殺した犯人だと！？
んなアホな…
なんか刑事の後ろでは親父が
「まさかお前だったとは…」
とか言って泣いてるし。
……
どうなってんだ？

ブレット０（後書き）

読んでいただいてありがとうございます。これから頑張っていきますんで、よろしくお願いします

ブレット1

俺は親父と共に三重県警に行った。
親父は外で待たして俺はなかに入った。
んで、ドラマとかでよくある取り調べ室の椅子に座った。
刑事
「で、やったのか？」
「やった」と言うバカはいないだろう。
八雲
「やってるわけないだろ」
刑事
「……」
八雲
「……」
刑事
「だよなぁ～」
は？
刑事
「だってよぉ、こんな普通の高校生が母親を殺せるわけないだろ」
俺をここに連れてきた奴が何を言っている
八雲
「じゃあ何で俺をここに連れてきたんだよ？」
刑事
「命令だったからな」
はぁ……
……
もしかしたらなんとかなるかもしれねぇな
八雲
「なあ、もし真犯人が捕まったら俺は家に帰れるのか？」

刑事
「なんだ、ホームシックか」
ふざけんな
刑事
「冗談だ。
まあ、真犯人が捕まったら帰れるだろうな」
八雲
「よし、俺が捕まえてやる」
刑事
「……はぁ？」
八雲
「だから、俺が捕まえてやるって」
刑事
「・・・・・・」
”こいつ大丈夫か？”みたいな目で見るな
刑事
「自信有り、のように見えるが、なんかあんのか？」
八雲
「そりゃあ、新聞にあんだけでっかく載ったら自信もつくさ」
刑事
「なに・・？・・・・・そういえばおまえの顔、見覚えがあるぞ。あれは確か・・・・一年くらい前の新聞・・に」
刑事がなにかを思い出したみたいだ
刑事
「あぁぁぁ！！思い出した！おまえは・・・
〝銀色の弾丸〟シルバーブレット！」
八雲
「当たり♪」

ブレット1（後書き）

なぜ主人公が三重県に住んでるかというと、作者が三重県人だからです。

ブレット2

刑事
「おまえが…シルバーブレット……」
俺は立ち上がった
八雲
「俺に時間をくれ。俺が真犯人を引きずりだしてやる」
刑事
「……いいだろう。おまえが一年前のあの事件を解決したシルバーブレットって言うなら、この事件、解決してみせろ」
八雲
「俺をなめんなよ。絶対犯人を暴いてやる」
刑事
「俺の名前は神崎(しんざき)だ。事件の犯人がわかったらここに電話をくれ」
俺は名刺を受け取った
刑事
「それと、資料が必要になったら俺に言え。可能なかぎり見せてやる」
八雲
「へぇ、えらく親切だな」
神崎
「なに、ただのきまぐれさ。気にすんな」
そして俺は事件のあった山野公園にむかった。
殺害方法はかなりシンプルで、何か鋭い刃物で腹を一突きにされた。
被害者は涙ユリ４０歳　主婦。って俺の母さんなんだけどな。
問題は、凶器がまだ見つかってない事。
犯行は昼の１２：４５。目撃者の証言によると犯人は紺色のレインコートで顔を隠し、正面から近付き刺した。容疑者はこの二人
民　牧子・蟹江　舞

どちらも被害者の友達で、俺も何度か会ったことがある。
動機は不明
アリバイは無し
ついでに言うと俺もアリバイが無い
……
さて、まず凶器だな。
容疑者の自宅にあった刃物は、すべてルミノール反応はでなかったらしい。
だとすると、川にでも流したか？
……
いや、この近くの川は流れが穏やかだ。激流ならともかく、警察が見落とすはずが無い。
凶器はいったいどこに？
そして、動機は？

ブレット3

八雲
「まぁ、無理して凶器を割り出さなければならないこともないんだが…この事件、凶器が気になってしょうがねぇんだよな…
俺の考えが正しければ、凶器がこの事件の鍵を握っている！」
俺が考えていると、おばさん二人が俺の横を通った。
ウッ、化粧くさっ
おばA
「ねぇ、聞いた？この前、ここら辺で泥棒が入ったらしいわよ」
おばB
「聞いたわぁ、窓を割られてたあれでしょ？確か…何か盗られてたのよね。警察は盗られた物については何も言ってなかっわ。最近物騒よねぇ」
そういえばそんなのあったな。確か……母さんが殺された日の朝に二つの事件の関連性は……？
まてよ！もしかしたら…

プルルルル
神崎
「はい。もしもし？
……なんだおまえか
……
おぅ、よく知ってるな、その通りだ。
しかもかなり大きめのがな。
……
で、どうなんだ？分かったのか？
……

そうか。
それはそうと、オマエ、母親が殺されたってのによく冷静でいられるな。
……
は？ほっとけ？……まぁいいけどよ。じゃな、健闘を祈ってるぜ。」
プツ
神崎
「まあ、よけいな詮索は無用か……」

八雲
「ったく、余計なこと聞くんじゃねぇよ。思わずとんちんかんな返答しちまったじゃねぇか」

だが、やっぱりそうか、俺のよみどおりだな。
凶器はあれで決まりだ！

よ～し、待ってろよ犯人。
すぐに追い詰めてやるぜ。
この、シルバーブレットがな。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9950c/

シルバーブレット

2010年10月15日22時42分発行